九州・沖縄ブロック秋田県人会だより　第32号（2024年7月発行）

心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

秋田犬の赤ちゃん



カウンターの上で並んで眠るのは生後間もない3頭の秋田犬の赤ちゃん、ぴったり寄り添ってウトウトしています。しかし良く見ると、それぞれに個性も伺えます。

直木賞作家の**戸川幸夫**（とがわ・ゆきお1912～2004）さんが、こどものための動物物語「秋田犬物語」を書いています。

東京・大久保で暮らしていた小学校5年10歳の頃、父親に秋田犬が贈られて来ます。秋田から列車で連れて来られました。マツと言う名前の秋田犬は生後5か月か6か月の雌犬でしたが、耳は垂れて尻尾も巻いていません。

父母がマツを可愛がらない中、幸夫少年と祖母が世話を続けます。マツは8匹の子犬を生み、祖母が産婆役をします。幸夫さんの家に別の秋田犬が来ました。こちらには立派な犬小屋、マツは物置小屋の木箱が住まいです。マツは、また4匹の子犬を生み、戸塚にある父親の部下の家に親子で預けられます。しかし、マツは子犬4匹を連れて大久保まで戻って来るのです。祖母が病に倒れると利口なマツは濡れ縁から離れの祖母を見舞います。冬の寒さの中、濡れ縁に居場所を作って貰い世話をしてくれた祖母をマツは看取ります。

「わたしの少年時代の想い出を書いたもので、1匹の忠実な犬の物語です。秋田犬としては立派な犬ではありませんでしたが、犬としては、とても性質のいい犬でした。」

戸川さんは佐賀市生まれ、旧・若松市育ち、旧制山形高校中退。1954年「高安犬（こうやすいぬ）物語」で第32回直木賞を受賞。高安犬は山形県東置賜郡高畠町の高安地区で飼われていた日本犬の一種、マタギ犬として猟に使われていたが、昭和初期に絶滅しました。

澤田石守衛（さわだいし・もりえ）さんは、五城目町出身で2008年に92歳で死去。2002年に「秋田犬の父」という本を書いています。海軍工機学校を卒業し日本軽金属の技師として満洲へ、帰国後は三菱鉱業に入社し、秋田・宮城4か所の水力発電所・ダムの建設に携わりました。1944年から秋田犬を飼い始め1976年から栗駒山に移住しました。雑木林を切り拓き、水を引き、家を建て、自給自足の暮らしをしながら多くの名犬を育てました。秋田犬と共に「熊撃ち」をした最後の人です。



澤田石守衛さんと愛犬シロ（2006年5月）

秋田・岩手・宮城の県境にある栗駒山の春は4月末。夜明け前の午前2時、秋田犬を連れて家を出た澤田石さんは、高さ数メートルの雪の壁が続く道から登山口を目指します。懐中電灯の照らす先には引き綱を外して貰った秋田犬が嬉しそうに歩き回ります。明かりに気付くと立ち止まり、こちらに顔を向けて目をキラリと光らせました。何かに期待を膨らませているような目をしています。澤田石さんは、おもむろにポケットから缶入りのペイント・スプレーを取り出します。慣れた手つきでカチ、カチ、カチと缶を勢いよく振ったかと思うと雪の壁に幅7メートルの大きな赤い文字を書きました。「祝、山開き、秋田犬」。

豪快な祝辞を山に捧げる春の訪れです。

阿部雅龍さん逝く、人力車と小倉駅(無法松の銅像前)で



秋田市出身の冒険家、阿部雅龍さんが3月27日、脳腫瘍の為、亡くなりました。41歳でした。

阿部さんは、2023年11月、2回目の南極点到達を目指し出発予定でしたが、3か月前の8月に脳腫瘍が見つかり闘病中でした。

阿部さんは、北九州市小倉北区や福岡県田川郡福智町の市場小学校を何度も訪れ、子供たちを冒険の世界へ誘い長年の目標である徒歩での南極点到達へ向かう挑戦の楽しさと思いを訴えました。

阿部さんは1回目の南極点到達後も市場小を訪ねて凱旋報告し、子供たちは目を輝かせて報告に聞き入りました。2020年12月には福岡県豊前市も訪ね、後藤元秀・市長らに会うと共に地元の鹿肉を捌くなど料理の腕前も披露しました。小倉駅では、岩下俊作が荒くれ者の人力車夫を描いた小説「無法松の一生」の銅像を前に、夢を追う男、阿部屋雅龍の法被を着てカメラに納まりました。



阿部さんは秋田大学在学中の21歳から冒険活動を開始し、人力車の引手(車夫)をしながら、単独・人力をテーマに世界各地を冒険して来ました。人力での冒険距離は20,000km以上。南米自転車縦断(11,000km)、北米大陸ロッキー山脈縦貫トレイル踏破(5,400km)、乾季アマゾン川いかだ下り(2,000km)、カナダ北極圏徒歩(500km)、カナダ北極圏徒歩(750km)、グリーンランド北極圏歩行(1,200km)等々。全て人力単独行。

2019年には日本初メスナー・ルートによる南極点単独徒歩到達(918km)を達成しました。著書は学校推薦図書『次の夢への一歩』角川書店。

南極探検家の先達・白瀬矗(しらせのぶ)中尉の出身地、秋田県にかほ市で6月16日に、7月1日には東京都板橋区で送る会が開かれました。

痛みをこらえてシンジー歌い納めのコンサート



福岡・秋田県人会、会員のシンジー(麻生進さん)が4月14日(日)、ソロ・コンサートを開きました。

シンジーは、83歳。昨年から体調を崩しており、今回11回目のコンサートです。会場は福岡市中央区天神のアクロス福岡・円形ホール、100人収容の会場です。急な案内でしたが、熱心なファンが約30人、詰めかけました。

ステージには秋田県人会から贈られた花が飾られ、シンジーが自主制作した東海林太郎生誕120周年の公式記念曲CD「ケヤキ・明日なろ・旭川」の秋田竿燈をあしらったポスターを背景にしました。

シンジーは、休憩を挟んで約20曲の昭和歌謡を中心に歌いましたが、途中から腰に痛みが出て、イスを用意するなど、痛みをこらえての歌い納めとなりました。

ご本人から、「最後までやり通せたのも皆さんの御支援のお陰です。厚く御礼申し上げます。」という御礼状が届きました。写真撮影は、福岡・秋田県人会、幹事の伊勢新二さん。

そーはく、イベント大盛況、続く



「そーはく」（前列中央）

4月20日（土）21日（日）に開催された福岡県八女市黒木町桑原「ゆめマルシェ」での「そーはく（福岡・秋田県人会会員の伊藤和憲さん）弾き語り教室×ゆめmaRche」のオープンマイクは無事終了しました。

20日に出演予定だった皆さんには21日に振り替えて頂いたり、21日は場所変更にも御協力頂きました。想定の3倍、50名以上の方に御来場いただきました。オープンマイクは、ライブステージで、登録頂いた方にマイクを含めたステージを開放することです。

「そーはく」は、4月から6月にかけて「ゆめマルシェ」を含めて8回のイベントを展開しました。中には弾き語り教室周辺の「草むしり」もありましたが、いずれも盛況の連続でした。場所は、福岡県八女市、黒木町（2回）、大牟田市、久留米市、筑後市、うきは市と福岡県南部を中心とした活動でした。

どんたく港まつり



5月3日（祝）・4日（祝）、福岡市民の祭り「第63回（2024年）博多どんたく港まつり」が開催され、大型連休中では全国で最も多い230万人の人出で賑わいました。

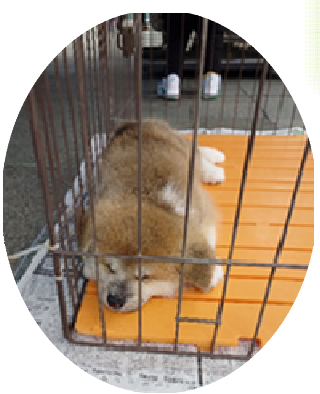
コロナ感染がほぼ落ち着き、今回は5年ぶりに制限のない「どんたく」になりました。福岡・秋田県人会は11名の会員が4日午後、どんたくパレードの「みちのく夢プラザ隊」として横断幕を掲げて参加しました。

会員4名がナマハゲに扮し、沿道の観客に怖さをアピールしました。市内1，3キロの目貫通りをパレードしたのは、2日間で計190団体1万7000人でした。ナマハゲのパレード初体験の会員は福岡市に単身赴任中で、東京から、ご家族が駆け付け声援を送りました。ナマハゲの怖さを沿道にアピールし過ぎて、パレードの進行が遅れる場面もありました。

九博にナマハゲと秋田犬

5月5日（子供の日）、福岡県太宰府市の九州国立博物館で秋田県福岡事務所が「まんず来てけれ！秋田フェア2024」を開催しました。

会場には、「なまはげ」と「秋田犬」が登場し、なまはげとの撮影会や秋田犬ふれあい処が設けられました。「なまはげ」には、3月末まで九州国立博物館に学芸員として勤務していた大高広和さんが現在の勤務先の東京から駆け付け、記念撮影の順番を待つ行列にポーズを取っていました。秋田犬は秋田犬保存会福岡県支部の協力で昨年に続いて子犬も含めてやって来ました。中には疲れたのかケージの中で眠り込む秋田犬もいました。会場では、「忠犬・ハチ公のことをもっと学ぼう講座」や北東北三県アンテナショップ「みちのく夢プラザ」の出張販売も行われました。



櫛田神社、枝垂れ桜

博多祇園山笠で知られる博多の氏神さん、櫛田神社境内に仙北市角館から取り寄せた枝垂れ桜が4月始めから見頃になっています。

2006年に植えた当時、樹齢40年、環境の変化で樹勢が衰えたこともあるそうですが、どうにか気候になじんだようです。角館の枝垂れ桜は国の特別天然記念物、根の周囲などを大切に保護しています。



八郎潟の佃煮を　九州で販売して13年



秋田市に本社を置く大塚商店の代表社員、大塚勝孔（かつよし）さん（51歳）は、福岡市中央区天神、新天町商店街にある北東北3県アンテナショップ「みちのく夢プラザ」で八郎潟の佃煮を販売して13年になります。みちのく夢プラザが近くの住友生命ビル1階にあった時代から近くのマンションを借りて一人で店を守って来ました。九州一円のデパートで開催される物産展に出かけることもあります。秋田出身の方が店を訪れ懐かしそうに佃煮を買って行きます。

佃煮はシラウオ、コエビ、ちりめん、ギバサなどに混じって、イナゴの佃煮もあります。昨年から八郎潟でワカサギやシラウオが取れず大塚さんは苦戦中ですが、ワカサギは9月からの漁に期待しているそうです。秋田の本社にはめったに帰らず、事務の方に任せているそうです。奥様と福岡市で二人暮らしですが、九州の拠点として交通の便が良く暮らしやすいと言っています。

干拓で小さくなった八郎潟ですが、潟上市天王の曹洞宗の寺院・自性院が「八郎潟　潟語り（かたがたり）」という寺報で干拓前を中心に八郎潟で生きた人々の想い出を綴っています。1993年から2017年まで25年間、50回続いた冊子にイラストや写真も加えられ2019年に書籍にもなっています。

福岡・秋田県人会、花見もどきの会



3月29日（金）夕方、福岡市中央区の某所で福岡・秋田県人会の理事を中心に10名が集まり、福岡での桜開花から2日後、花見もどきの会を開きました。

席上、5月の定時総会について、日時、場所などを決めました。会は会費1,000円、飲食物は各自、持ち寄りでしたが、暖かい日よりに恵まれ、お酒もつまみもあっという間に無くなりました。背景に高級ホテル、リッツカールトンが見えるロケーションでした。

福岡・秋田県人会、定時総会



5月18日（土）夕方、JR博多駅前のkitte博多9階にある中華「梅蘭」で福岡・秋田県人会の定時総会が開催されました。　出席は元会員で横浜市在住の三浦明宏さんや水俣市の長谷川忠志さん、佐賀県三養基郡基山町の明石穣さんなど県外の方も含めて18名が参加しました。総会では、前年度の事業報告や会計報告、今年度の事業計画が承認されました。また総会案内には欠席された36名の会員から近況を添えて返信がありました。次の会合は9月～10月です。

欠席された会員の近況から、いくつかを、ご紹介します。

・福岡県職員を辞し、東京の大正大学に教員として赴任しました。家族はしばらく福岡に残ります。機会があれば例会に顔を出したいと思います。

・昼のランチでしたら、参加しやすいのですが。

・ここ数年5月～6月にかけて帰省し、一人暮らしの姉の山菜料理を堪能しています。昨年は「香椎花園」から贈られた大森山の観覧車に乗り童心に帰って来ました。年の暮れには八峰町のキリタンポを、お取り寄せ（※）して秋田を偲んでおります。

※　会員の菊地公平さんのご実家です。

〒018-2617、秋田県山本郡八峰町八森字御所の台30－1、菊茶屋、菊地薫さん、

電話fax0185-77-2812

・みちのく夢プラザで「ババヘラアイス」を見つけました。この夏、食べてみようと思います。

沖縄慰霊の日を前に



6月23日は沖縄慰霊の日です。糸満市摩文仁の丘の平和祈念公園では、沖縄県主催の沖縄全戦没者追悼式が開催され、沖縄県内は平和への祈りに包まれます。沖縄県民の4人に1人が命を落としたとされる沖縄戦が終結した日です。それから79年が経過しました。秋田県人沖縄会は、6月17日に宮城由美子会長を始め4名の会員が摩文仁の丘にある秋田県の慰霊碑、千秋の塔を訪ねて花を手向けて慰霊し、改めて平和について考えました。

ところで、秋田県遺族連合会が3月13日から16日、沖縄、広島へ慰霊巡拝の旅をしました。秋田県遺族連合会から16名、秋田県庁から2名、秋田人沖縄会の宮城由美子・新会長始め計21名が参列しました。

千秋の塔には沖縄戦の秋田県関係の戦没者432柱と南方地域の戦没者が祀らています。沖縄戦では太平洋戦争で国内最大の地上戦が展開され、20万人以上の命が失われました。遺族連合会の一行は慰霊祭の後広島市に移動して、広島原爆の爆心地に近い広島平和記念公園を訪れました。一行は原爆死没者慰霊碑に参拝し、平和記念資料館などを訪ねました。広島原爆の慰霊碑には33万人以上の死没者名簿が祀られています。

秋田県人沖縄会、模合を再開



秋田県人沖縄会が2024年2月から模合を再開しました。

コロナを経て、ほぼ5年ぶりです。毎月第3土曜日19時から、会場は、那覇市前島2－5－14、秋田料理の店「花より」。

女将さんは、男鹿市出身でマラソンが趣味の畠山法子さん。隠れ家のように少し分かりにくい場所にあります。秋田のジュンサイやとんぶり山芋、きりたんぽ鍋などを出してくれます。6月15日は沖縄全国ふるさと会、理事・事務局長の高久健治さん（栃木県出身）など4名が集まり、ふるさと秋田の話に花が咲きました。

県職員異動



豊島朝陽 さん

～豊島 朝陽（とよしま・あさひ）さんから～

4月から福岡事務所に勤務している豊島朝陽です。観光を担当しています。

福岡をはじめとする九州地方からすると、秋田に行くには距離があり、秋田を訪れたことがない人が多いと思いますが、観光地の紹介や秋田ならではの文化に触れる機会を提供し、秋田に興味をもってもらい、秋田を訪れる観光客を増やせるように頑張ります。福岡から秋田を盛り上げられるように精一杯努めて参りますので、よろしくお願いします。豊島さんは北秋田地域振興局（北秋田市鷹巣）からの転勤です。

～北村 萌華（きたむら・もえか）さんから～

福岡・秋田県人会の皆様、3年間お世話になり、ありがとうございます。令和3年3月、舞鶴公園沿いの桜並木と秋田県人会の歓迎会が昨日のことのように思い出されます。

私は県外に住むのは福岡が初めてで、ドキドキしておりました。しかし、温かい皆様の応援のおかげで楽しい福岡生活となりました。また、遠い九州の地で秋田県人会があることにより、秋田県が愛されていることを実感しました。今後とも皆様のパワーで九州から秋田県を盛り上げて頂きたいです。北村さんは秋田県東京事務所へ転勤されました。



北村 萌華 さん

カナダ・トロント在住の福岡・秋田県人会、会員・斎藤健史さんから



私は、この3月でカナダ滞在が3年8か月となりました。この冬は私にとってカナダで4回目の冬ですが、今年はいちばんの暖冬で、ほとんど雪が積もりませんでした。それでも日本（福岡）よりはずっと寒いです。写真は、3月24日にトロントのオンタリオ湖で撮影したものですが、快晴ながら温度はマイナス2度くらいでした。トロントの春は、日系人や日系企業などの寄贈で植えられた桜が咲き誇ります。今年の開花は例年よりは早そうですが、それでも4月末から5月上旬になりそうです。ちょうど故郷・秋田と同じ位の時期でしょうか。

ハワイ島、大坪洋子さんから



3月に3週間ほど日本行きを予定していましたが、仕事の都合上、延期中です。ハワイでの秋田県からも参加されている行事を紹介したく、お知らせします。

私の住むハワイ島ではなく、オアフ島のホノルルでのイベントですが、3月始めにHonolulu Festivalが盛大に行われました。3日間のイベントで最終日には秋田から竿燈グループ参加しました。

コロナ禍の間は開催されませんでしたが、再び通常通りに開催されるようになり活気付いてきて嬉しく思います。それではお元気でお過ごしくださいませ。

おくやみ



福岡・秋田県人会、会員で久留米市在住の成田文隆さんが2023年5月18日に亡くなりました。73歳でした。謹んでお悔やみを申し上げます。

成田さんは、大館市出身です。久留米市善道寺町でガーデンデザイン・ナリタを経営し、久留米市や福岡市の個人住宅やマンション、店舗など約40軒の庭園造りをされていました。

写真は、2022年5月2日にご自宅で。

event

沖縄

〇秋田県人沖縄会、模合
- 日時：毎月第3土曜日、19時
- 場所：那覇市前島2－5－14、秋田料理「花より」

福岡

〇福岡・秋田県人会レクリエーション
- 日時：9月7日（土）か14日（土）夕方
- 場所：福岡空港国内線ターミナル4F、ビアマルシェ、ソラガ・ミエール

～日時は決まり次第、ご案内します。

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jpへどうぞ

